

第 50 回

海外視察 in Australia（後編）

皆さん、こんにちは。札幌オフィス所属 J3 の N.S
です。前回に続き、今回も海外視察で特に印象に残った事を紹介させていただきます。



現地の会計士協会でご用意いただいたランチの写真です。

日本の公認会計士の女性比率は準会員を含めても約 15%と非常に低いですが、オーストラリア

の会計士の女性比率は約 50%と理想的な水準です。背景として、物価が高く女性も働かないと家計を支えられないといった世知辛い国全体の事情もありましたが、オーストラリアに広く浸透している「各個人の意思を尊重する」意識が女性の活躍を促進していると

感じました。現地の方は「多民族国家であるオーストラリアでは国民全体で共有する常識がほとんどないため、各個人の話を聞き、それぞれの事情を尊重する必要がある。」とお話しされていました。これは女性のみならず、すべての労働者の労働環境を改善する重要な考え方だと思いました。オーストラリアには性別のみならず、人種や宗教など様々な多様性が存在します。女性比率についてお話を伺うと、その答えはそういった全ての多様性に対応できるもので、私たちよりも次元の高いお話をされているなと痛感しました。

「各個人の意思を尊重する」環境は、労働環境の見直しや新しい制度の導入よりも、従業員一人一人の理解によって実現すると考えます。この点アークでは、各個人の事情に即した柔軟な対応をよく見かけます。今回私が海外視察に参加するにあたり、アークの業務ではないにもかかわらず様々な面でサポートして下さった事も一例ですが、家庭の事情で労働時間や場所を変更する人も決して少なくありません。アークで

はそれが当たり前なので、否定的な発言がないどころか、そもそもそれが話題にすらならない程です。また、若い世代だけでなく、幅広い年代・職位で、男女問わずそれが実現できているのもアークの特徴だと思います。先輩や上司がワークライフバランスを充実させている姿を見ると、私も気兼ねなく相談が出来て安心です！